

鹿病防第13号
平成19年6月29日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）

南薩地域のトルコギキョウにおいて、「トルコギキョウ黄化えそ病」の発生が認められ、特殊報第2号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

平成19年6月29日
鹿児島県病害虫防除所長

1 病害虫名 トルコギキョウ黄化えそ病
病原ウイルス：TSWV (Tomato spotted wilt virus)

2 作物名 トルコギキョウ

3 発生確認及び発生状況

南薩地域の農家ほ場のトルコギキョウで、新葉の黄化やえそ症状が認められ、平成19年5月9日に地域振興局で簡易検定、5月14日に農業開発総合センター病理昆虫研究室でELISA検定を行った結果、トルコギキョウ黄化えそ病と確認された。

発生面積は約10a、発病株率は0.1%未満であった。

本病は、国内では岩手県で平成9年11月に初めて発生が確認され、その後、静岡県、青森県（平成10年）、福岡県、北海道（平成12年）、東京都（平成16年）で確認されている。

4 病徴、伝搬、寄主植物

(1) **主な症状**：葉に激しい退緑モザイク、白色のえそ輪紋やえそ斑点を生じる。葉脈間に退色や白色のえそ斑を形成したり、花卉に斑入りを生じることもある。成長点や茎葉などに生じたえそ斑は、症状が進行すると淡褐色となり、葉枯れや枝枯れに至る。症状の激しい株では草丈が伸びず、著しい生育不良を起こす（図1、2）。

(2) **伝搬**：アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等）により伝搬される。アザミウマ類の幼虫のみがウイルスを獲得でき、羽化した保毒成虫により伝搬される。保毒成虫は終生伝搬能力を保持する（永続伝搬）が、経卵伝染はしない。汁液でも伝染可能であるが、管理作業による汁液伝染の可能性は少ないと考えられている。土壌伝染や種子伝染はしない。

(3) **宿主植物**：宿主範囲は極めて広く、ナス科野菜をはじめ、広範囲な草花、花木類、観葉植物等に感染し、野生植物を含め650種以上の植物が寄主植物として報告されている。

ナス科（トマト、ピーマン、ナス、パチュニア、タバコ）、キク科（レタス、キク、ガーベラ、ダリア、キンセンカ、マリーゴールド、ソリダスター）、マメ科（ラッカセイ、ソラマメ、ササゲ、アズキ）、ゴマ科（ゴマ）、アカザ科（ハウレンソウ）、リンドウ科（トルコギキョウ）、シソ科（サルビア）、イソマツ科（スターチス）などの作物に全身感染し、激しい病徴を示すものが多い。

5 防除対策

- (1) 本ウイルスを媒介虫するミカンキイロアザミウマなどアザミウマ類の防除を徹底する。
- (2) 施設の開口部には防虫ネット（1mm目未満）を張り，アザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (3) 施設内に青色粘着テープを設置して，アザミウマ類の発生状況を把握する。
- (4) 施設内外の除草を徹底し，伝染源を除去する。また，施設内やその周辺では，生産に関係ない植物の栽培を控える。
- (5) 発病株は伝染源となるので，発見次第速やかに抜き取り，埋没または袋に密封し処分する。
- (6) 栽培終了後は，アザミウマ類の施設内の残存や施設外への飛び出しを防止するため，早めにハウスを密閉して蒸し込み，死滅させる。



図1 新葉の退緑モザイク



図2 葉脈間のえそ斑